

産禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・薬方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
第125号 2014.8.1.
 毎月1回発行 産禪洞診療所 松井英介



菅野みずえさんへの、お詫び 「即座に15000頭を殺処分したのは国と県です」

松井英介

最近、私は新しく本を出しました。「『脱ひばく』いのちを守る—原発大惨事がまき散らす人工放射線—」(2014)花伝社。帯には『美味しんぼ』に描かれていることは事実だ！

この本の「はじめに」で、菅野みずえさんの話を、紹介しました(P.14-15)。みずえさんを知ったのは、福井地裁で画期的な判決を勝ち取った「大飯原発差し止め訴訟」原告団長でもある小浜市明通寺の住職・中嶋哲演さんが送ってくださった報告集でした。そこにあったのは、とても印象的で忘れられない話でした。以下が引用文の一部です。

浪江町の酪農家・菅野みずえさんの話

「15000頭ほどの牛を殺処分した。それでも放れ牛がいて、人間を信頼して寄ってくる。『ごめんね、ごめんね』と言うしかなかった」

「今私たちは先祖の菩提寺に参りましても、手袋で靴の上にビニール袋を履いています。素手で何かに触ることなどありません。蝶々さえ見ることはありません。ツバメの巢は軒から落ちてしまいました。あれほど大きかった蔵の青大将にも会いません。見るのも嫌でしたが、今となっては素肌で地を這う蛇は生きていられないのかと哀れに思われます。人のせいです」

「私は拗ねているのか、国や県から絆と言われるのが嫌な気がします。『絆とはべこ繋ぐ紐のことだべ、おらたちは誰に繋がれ、どこまで連れて行かれるべか』そんな気がするのです。『紐で人さ繋がれるもんでねえ、人は自分で手さ繋ぐんだもの、紐さ要らにいべ』そう思っています」。

彼女は「コミュニティーごとに移り住める代替え地が欲しい」と訴えています。

ところが、この本をみずえさんに送ったところ、長文の便りが届きました。まず彼女は、酪農家ではありません、私の思い込みによる完全な間違いでした。もうひとつは、引用冒頭の記述です。これでは誤解を招きます。彼女は、怒りをこめて書いてきました。

「即座に15000頭を殺処分したのは国と県です」。

また、彼女はつぎのようにも書いてきました。

「こうして報告が誤って活字になって、それを読んだ浪江の方々には15000頭の酪農家なんてとんでもないほら吹きだべと思われてしまうのだからなあとうなだれています。これまでも画面いっぱいの原発食だの、恥を知れだのと書き込みの洗礼を浴びて怒りやショックよりこれも含めて原発事故、仕方ないという諦めは覚えましたのでやっていけますが」。

これには私も参りました。「改訂版で訂正すれば済むという問題ではありませんが、今後最大限の努力をいたしますので、どうかお許しください。これに懲りずに、今後とも良いお付き合いをお願いいたします」。と書くのが、精一杯でした。